

実践

平成二十二年 坂本教育賞受賞校の取組み

〈確かな学力をめざして〉

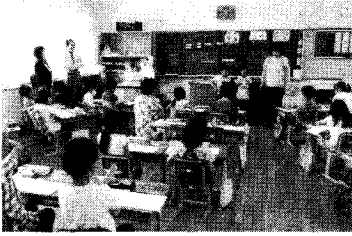
(算数科の取組)

芸西村立芸西小学校

校長 山中理史 学級数 一〇学級 生徒数 百八十七人

本校は、高知県教育委員会学力向上フロンティア事業の研究推進校として、平成十七年度から三年間、「確かな学力をめざして」という研究課題を設定し、算数科を中心とした校内授業研究の充実や個に応じた指導方法の研究に取り組んできた。

引き続き、平成二十年度から三年間、文部科学省学力向上



教室の授業風景



全校一斉授業

実践研究推進事業（平成二十二年度は、確かな学力の育成に係る実践的調査研究）の研究推進校として、「講師

招聘の算数科を中心とした校内授業研究の充実と児童が意欲的に学ぶための授業改善」や「授業以外の国語・算数タイム、チャレンジタイムでの基礎学力の定着」、「学力の基盤である基本的な生活習慣の確立」に取組み、次のような成果をあげた。

① 全国学力調査の結果
平均正答率の全国との差を平成二十年度から平成二十二年の三年間の平均にすると、国語A+1・5 国語B+1・6
算数A+7・6 算数B+3・1
であり、平成二十二年の算数の全国平均との差は
算数A+9・6 算数B+3・8 となり、学力の向上が見られる。

② 平成二十一年度標準学力調査の結果
第二学年から第六学年までの平均正答率と期待正答率との差の全校平均は、国語+5・9 算数+10・8 となっており、学力の向上が見られる。

③ 平成二十二年標研式CDTの結果
第二学年から第六学年までの平均正答率と全国平均正答率との差の全校平均は、国語+2・6 算数+4・2 となっており、学力の向上が見られる。

全校あげての算数教育の工夫を凝らした取組の結果、児童はいきいきと生活し、波及効果として、その他の学習に意欲的に取り組んでおり、今後更なる学校の活性化が期待できる

(芸西村教育委員会推薦)

「自分たちの地域をもっと笑顔に、
もっと元気に」を目指して

南国市立稲生小学校

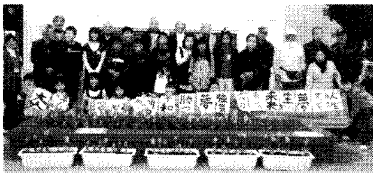
校長 竹内直人 学級数 七学級 児童数 九十三人

稲生小学校は、南国市の南西に位置する市内では比較的小規模な学校である。

地域は地名の通り、稲作と石灰工業が盛んであったが、新興住宅地は少ない為、古くから居住している方が多く、市内でも住民の高齢化率が高い地域である。

多くの子ども達は、保育所から小学校まで同じ生活空間の中で過ごすため、上級生と下級生と一緒に遊ぶ姿がよく見られる。その反面、新しい友達との人間関係づくりや新しいことへの積極的な関わりが弱い面が見られた。

そのため、子どもたちが自ら考え、様々な活動に取り組む



チューリップ大作戦
2月・4月と開花



早朝・地域教育協議会

力をつけることや、感謝や協力の心を育成し、地域を支える力をつけることを大きな目標に、体験活動や地域の方々との交流を続けている。中でも「自分たちの地域をもっと笑顔

に、もっと元気に」を合言葉に、平成四年から、地域に根ざしたボランティア活動として取り組んできた玉ネギの栽培と販売は、十八年目を迎えた。

地元の女性団体「みのりの会」や地域の方々、関係する多くの方々から、活動への助言や作業の支援をいただいている。子どもたちは、単なる体験学習ではなく、地域の大人とのふれあいを通して、その生き様や地域に対する考え方に触れることで、郷土愛を深め、勤労や福祉のあり方について、積極的にかかわる態度が育まれている。

平成十七年度よりPTAに地域を意味するコミュニティのCを加えた「PTCA」の組織づくりを始め、保護者と地域の方が共同で、開かれた学校づくりや地域の教育力の再生に務めている。また、平成十九年四月からは、毎週月曜日の始業前に全児童と地域住民と一緒にラジオ体操を行なっている。PTCAの提案で始まったこの活動は、学校と地域住民の公民館活動を合わせた健康づくり活動として定着し、地域住民・児童との交流の場となっている。

こうした地域の支援を活かした取組みは、地域への感謝と誇りとともに、多くの大人たちに見守られ支えられているという安心感を、子どもたちに実感として与えている。このことは、子どもたちの情操面での安定や学習意欲に結びつき、学習活動にも根気よく取り組む姿が見られるようになった。その成果は、基礎学力の定着や各種学力検査等においても全国平均を上回る結果を出すなど、常に好成績を収める結果にも現れている。

(南国市教育委員会推薦)

「生徒一人一人が主人公」をめざして

高知市立愛宕中学校

校長 谷 智子 学級数 十六学級 生徒数 四百四十三人

本校は高知市の北部に位置し、校区に五校の小学校をもつ県内では規模の大きい中学校である。本校も近年は生徒数が減少してきたが、ここ二年ほどは入学・転入等により生徒数が増加している。地域社会は、本校に協力的であり、生徒の安全や健全育成に地域をあげて取組んでいる。

教育指針として、「生徒一人一人が主人公」を掲げ、「仲間とともに学び、自ら考え行動する生徒の育成」を目標とし、「文武両道」に取組んでいる。

平成二年からは、特に「学力向上」と「地域ぐるみ」の取組みに力点を置いている。

学力向上対策としては、授業改善と家庭学習の定着に取り組んでいる。

授業改善については、平成十九年度から市内でも先導的な試みとして、全教員で教科の枠を超えた取組みを行った。



愛宕応援団・生徒会
朝のあいさつ運動



愛宕応援団 ゴーヤの苗づくり

平成二十年度には、「学力改善推進モデル事業」の指定を受け、「ATAGO方式

質の高い授業を目指す8のポイント」の作成や活用、「授業改善シート」を活用し、校内研修体制を組織化した。現在も教科の枠を超えたPTCAサイクルにより、授業改善を行っている。

また、家庭学習の定着については、平成十五年度から自主的な学習を行なう本校独自の家庭学習ノート「ダイアリー」を始めた。平成十九年からは、授業とリンクさせ、予習形式のダイアリーとして一層の充実を図り、「家庭学習の手引き」を配布し、自主学習に積極的に取組んでいる。その結果、家庭学習の実施率が大幅に向上した。これらの取組みで、平成二十一年度の学力・学習状況調査の結果は国語・数学共に向上した。

次に、地域ぐるみ教育では、平成十四年度以降総合的な学習の時間に「地域貢献型防災学習」に取組んだ。

平成二十一年度からはこれまでの全学年の系統的な学習の継続と共に、地域の防災にかかわる活動を加え、地域との連携を一層強化している。

また、地域住民が講師として、「地域の良さを知る道徳授業」の実施や、生徒会の校区内外の清掃活動も貴重な活動として、継続して取組んでいる。

平成二十一年から「学校支援地域事業」の指定を受け、小中連携による地域ぐるみ教育を目指し、地域コーディネーターと生徒が共に活動する組織として「愛宕応援団」を発足させた。

これらの活動を通して、保護者や地域から「地域と生徒が親しくなる、地域で会ってもよく声をかけてくれるようになった」等の声が聞かれる。また、生徒からも「自分達のために活動してくれてありがたい」等の声が聞かれる。今では学校に地域ボランティアがいることが自然なことになっている。

(高知市教育委員会推薦)